



《三菱商事環境憲章》

三菱商事は、地球が最大のステークホルダーであると認識し、事業活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します。

私たちは、新技術や新たな仕組みを活用し、温室効果ガスの削減に取り組みます。

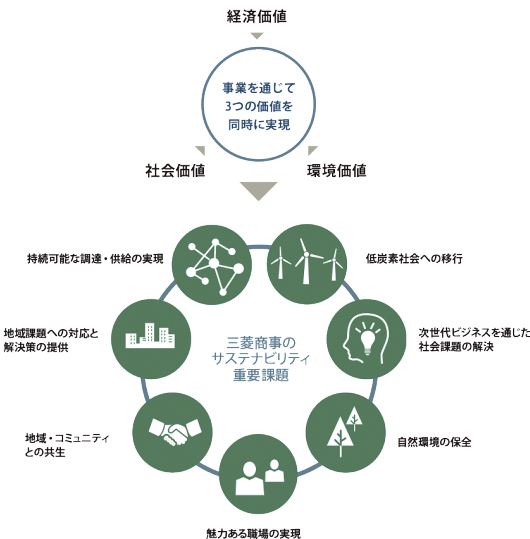
私たちは、資源（エネルギー、鉱物、食料、水等）の持続可能な利用に努めます。

私たちは、生態系がもたらす様々な恩恵の重要性を認識し、生物多様性への影響を緩和するとともにその保全に貢献します。

私たちは、汚染の防止を含む環境負荷低減や環境保全によって生じる環境価値の創出・向上に努めます。

私たちは、環境に関する企業情報を適時・適切に開示し、多様なステークホルダーとのコミュニケーション・協働を推進します。

私たちは、環境諸法規を遵守するとともに、国際行動規範に則した行動を取ります。



〈自然環境の保全事例〉

自然環境の保護に努める世界最大の天日塩田

三菱商事が49%、メキシコ政府が51%出資する製塩会社 Exportadora de sal, S.A. de C.V. (ESSA) が所在するエル・ビスカイノ生物圏保護区内には、世界自然遺産のOjo de Liebre 湾（コクヅラの繁殖地）があり、常に周囲の生態系に配慮して、生物多様性への負の影響の緩和、正の影響の促進に努めています。具体的には、「大気・土壌・海洋汚染の防止」「自然資源の保護」「生物多様性のモニタリング」という3つの方針の下、地域コミュニティや政府当局、大学、NGO等、幅広いステークホルダーと共に環境と調和した持続的な開発に引き続き取り組んでいきます。

サンゴ礁保全プロジェクト

三菱商事は創立50周年記念事業として、2005年からサンゴ礁保全プロジェクトを推進しており、現在は沖縄、セーシェル、オーストラリアの3拠点において、大学・NGO・政府機関等と連携しながら様々な角度からサンゴ礁保全のための研究を支援するとともに、社内外からボランティアを募集し、調査研究活動への参加を通じて、環境問題への理解を深めるためのプログラムを行っています。白化現象や病気のメカニズム等プロジェクトの研究成果はウェブサイト、国際サンゴ礁シンポジウム等で発表され、地球温暖化等により存続の危機に瀕するサンゴ礁の保全に寄与しています。当プロジェクトは紺綬褒章、国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）が推奨する事業として認定を受ける等、様々な形で評価を頂いています。

熱帯林再生実験プロジェクト

三菱商事は1990年より「熱帯林再生実験プロジェクト」を開始し、現地固有の植物を密植・混植方式で植林し、熱帯林の短期再生を目指しています。現在はマレーシア・ブラジル・ケニアの3拠点で大学・NGO・政府機関・地元住民等と連携しながら植林活動に取り組んでいます。